



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# ミサ典礼の変更箇所を学習

## 白浜神父を招き鹿兒島と奄美で典礼研修会

教区主催の典礼研修会が、九月二十日(日)午後二時からカテドラルで、十月四日(日)午後二時から名瀬カトリックセンターで行われた。内容は、新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所の導入が今年の待降節第一主日(十一月二十九日)から実施されるため、その変更箇所の研修である。講師は日本カトリック典礼委員会委員で日本カトリック神学院院長の白浜満(みつる)神父。参加者は鹿兒島で約二百人、奄美で百六十人だった。



160人が集まった奄美での研修会

二〇〇二年三月に発行された「ローマ・ミサ典礼書」規範第三版の日本語版が用いられるためには、「ミサ総則」と「ミサの式次第」について教皇庁典礼秘跡省の認証が必要だが、昨年五月「ミサ総則」改訂証が認証された。この改訂証については、この中に未認証の「ミサの式次第」の文言も含まれているため、全文の公表は控えられている。だが、改訂証の中で早期に実施できる箇所については、早めに慣れおくことが望ましいとの司教団の判断により今回の一部実施となった。つまり、ミサの式文に関する変更は今回の実施に含まれていないため、式文は現行の『ミサ典礼書』のとおり唱える。

# 特別聖年中の教区行事など検討

## 十月開催の司教評議会

十月五日(月)午後、教区本部で司教評議会が開かれた。

議題は①来年度の行事予定、②来年開催される教区評議会のテーマ、③いつくしみの年に関する、④世界家庭大会(フィラデルフィア)司教報告などが主なものであった。

①略  
②については、司教の年頭教書との兼ね合いがあるため、次回に検討する。

③教皇が今年四月に出された「いつくしみの特別聖年公布の大勅書」により、今年十二月八日(無原罪の聖マリアの祭日)から来年十一月二十日(王であるキリストの祭日)までいつくしみの特別聖年となる。

この大勅書の中で、教皇は望みとして、「待降節第三主日(十二月十三日)にローマのカテドラルで聖なる扉が開かれる。これに合わせ他の教区のカテドラルや

する賛歌(あわれみ、感謝、平和)は、正式な典礼式文であるため、他の歌詞の聖歌で代用できない。  
②沈黙:ミサの開始前後と、ミサの間は、祭儀の部分に合わせた沈黙を守る。  
③アレルヤ唱:聖歌隊や先唱者がいる場合、初めと終わりの「アレルヤ」だけを会衆が歌い、唱区は、聖歌隊や先唱者が歌う。  
④福音前の十字架のしるし:司(助)祭が「〇〇による福音」と唱えた後、会衆は「主に栄光」と唱えながら、額、口、胸に十字架のしるしをする。

⑤供えものの準備の間:共同祈願後から「皆さん、このささげものを」と司祭が招くまで一同は着席する。  
⑥四旬節中の装飾:日本の適応として、祭壇を控えめに花で飾ることができ(末吉卓也)

特別に重要な教会でも、聖年期間中にいつくしみの扉を開くよう」ということを表明されている。

これを受けて郡山司教は、カテドラルと名瀬聖心教会で「いつくしみの門」と書いた特別の門を作りたいと述べた。この聖年を教区でどう過ごすかについては、次回の評議会までに、

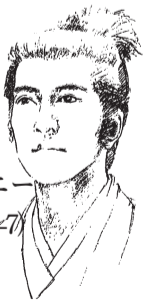
# 福者レオ税所七右衛門 殉教祭

2015年11月15日(日)

主催 鹿兒島司教区

## プログラム

- 12:20 京泊天主堂駐車場集合 (薩摩川内市港町6232)
- 12:30 巡礼行列
- 13:00 祈りと聖歌 (京泊天主堂跡)
- 14:30 川内教会でセレモニー (薩摩川内市若松町47)
- 15:00 殉教記念ミサ



十月のコンベンツス  
十月六日(火)午前十時から教区本部で定例司教集会(コンベンツス)が開かれた。  
今回は新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所についての研修が中心となった。その他、前日の司教評議会の報告や九月に開かれた第三十九回日本カトリック「正義と平和」全国集会東京大会の報告などが行われた。

## 人事

▼善き牧者会  
竹山昭神父に代わり社会福祉法人善き牧者会の理事長に頭島光神父(レデンブートル会) 谷山教会主任司祭)が就任した。

## 賛美の集いのお知らせ

日時 十一月十四日(土)午後一時から午後四時  
場所 鴨池教会  
内容 賛美、聖体礼拝、いつくしみのチャプレット(花束、ロザリオ)  
参加費 無料  
連絡先 末吉卓也神父(本部事務局)

# 11月15日~22日 聖書週間

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心をもち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。  
各教区では、聖書への感心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しにぜひ参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましょう。たとえば、毎日欠かさず聖書を一章ずつ読む方法や、ミサにあらずも聖書を朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。

# バウロ貴島丈弥助祭 司祭叙階式・祝賀会

◎叙階式  
期日 十二月六日(日)午後四時から  
場所 名瀬聖心教会  
※共同司式司祭は、各自アルパと白のストラを用意してください。  
◎祝賀会  
同日午後六時半から、奄美観光ホテル  
参加費 四千元  
申込締切 十一月十五日(日)  
申込は、小教区毎。奄美地区は名瀬聖心教会に、それ以外の地区は教区本部に参加者名をお知らせください。

9月21日から三日間、東京大司教区のカテドラル大聖堂とイグナチオ教会の岐部ホールを会場にして、「正義と平和協議会」全国大会が行われた。三日間の参加者延べ人数は2000名を超えていた。私自身は昨年、二回目の参加である。鹿児島教区からは、昨年と同様3人の参加者があった。その内1人は昨年出会った一般(未信者)の方である。昨大会初日の開会式で、偶然席が隣りになり知り合いになった。全国から集まっているのだが、九州からの参加者が少ない。

初日(9月21日)は、開会式の後、政治学者の中野晃一(上智大学教授)さんの基調講演が行われた。演題は、「東アジアにおける平和と社会正義のために」である。中野教授は近刊「右傾化する日本政治」(岩波新書)において、自由と民主主義が壊れていく日本の現状を分かりやすく分析している。本講演では日本のみならず世界各国で「ナショナリズム」「原理主義」が台頭していることを指摘した。安倍総理の「七十年談話」の非論理性を鋭く指摘するとともに、カトリック司教団の「七十年メッセージ」を優れたものと評価していた。初日の夜は、交流会が開かれた。司教・司祭・修道者・信徒が飲食をともにしながら、自分たちの信仰(実践)を語る良い機会となった。6月の社会司教委員会シンポジウムで鹿児島に来られた司教さん方にお礼と感想を述べることができた。鹿児島に縁がある司祭・信徒とも意見交換ができた。各教区ごとに自己紹介を行い、教区の特徴が表れていた。シスター

のギター伴奏で歌を歌う教区もあった。

二日目(9月22日)は、二十のグループに分かれての分科会である。原発・人権・憲法・難民など信仰に深く関わる諸問題を取り上げられていた。(韓国では、「正義と平和」の全国大会は行われていないとのこと、更に多くの分科会が開かれることに驚いていた。)私は、第16分科会「東アジアにおけるカトリック教会の脱原発の連帯を考える」に参加した。基調報告は、柳田真さん(たんぼ舎代表)の「日本の脱原発運動の現状と今後」と武藤類子さん(福島原発訴訟団团长)「福島の今・原発事故は終わらない」、午後には韓国の神父・シスター・信徒による「韓国の脱原発運動と

### 第39回日本カトリック「正義と平和」全国集会

#### 東京大会報告

教区正義と平和協議会担当

紫原教会

山下和実

カトリック教会」などである。いずれも現場で実践されている方々のリアルな報告がなされた。豊富な資料・映像により、原発の危険性と即時廃止の必要性が十分伝わってきた。

三日目(9月23日)は、「社会司教委員会シンポジウム」が、カテドラル大聖堂で行われた。「現代世界憲章」五十周年を記念したもので、二回目は、6月に鹿児島で開かれた。今回は最終回で、「正義と平和協議会」担当の勝谷司教と「カリタス・ジャパン」担当の菊地司教との講演が行なわれた。勝谷司教は「平和について考える」と題し、戦争についての考えを「パーチェム・イン・テリス」「現代世界憲章」「平和アピ

ール」などから説明した。その上で「最近歴史を書き換える試みや世界に沸き起こるナショナリズムへの懸念がある。教会は先の大戦時への反省から、日本の現状について発言をしないわけにはいかない。しかし、それはイデオロギーに基づくものではない。人間の課題として平和を訴えるのである。今回の安保法制について、懸念材料がある。法律が成立すると今の政府の意向と関係なく、解釈・運用される危険がある。」と述べられた。菊地司教は、「現代人の喜びと希望」の演題で、貧困への取り組みは、「平和」への取り組みであること、発展とは、富める国の生活水準にすべての人を引き上げることではなく、個々人の尊厳と創造

くることができた。この貴重な体験を鹿児島教区にどのように還元していくかが課題となる。

全国大会に参加すること最大の成果は、同じ信仰を持つ者が集い、向かい合っている、共通の課題をともに考え、意見を述べ合うことにある。分かち合いができるという点である。ふだんは違う小教区・教区で信仰生活を営んでいる者が、自分の信仰や教会のことをざっくばらんに語り合う場でもある。全国大会に参加することで、他の教区の様子を知ることができた。それによって、外から鹿児島教区を見ることもできた。鹿児島教区には良い点もあれば、改善すべき課題もあると思う。信徒以外の司教・神父さん、シスター方

とも気楽に話せるのも良かった。一人ひとりがキリスト者として、それぞれの場面で地道に信仰を生きている様子に分かることで、自分の信仰に励みとなった。今年韓国から脱核(反原発)委員会のメンバー(司教・司祭・シスター・信徒)が参加し、アジアの人々との連帯感を持つことができた。韓国の信徒・司祭の組織力とひとりひとりの宣教への熱意には圧倒された。韓国と同じことはできないが、参考になることも多い。日本のカトリック教会は、社会の中では少数派である。また教会の中で社会や政治の問題に取り組む信徒は、更に少数である。この現状を変えるためには、信徒の熱意・自発性が重要で

性、天職を具体的に高めることであると述べた。「今日においては排他性と格差のある経済を拒否せよと言わなければなりません。」と教皇フランシスコの言葉を引用して結んだ。

昨年が初参加のため緊張感があったが、今回は、知り合いもできたせい、多或少余裕を持って参加できた。多くのことを学ぶことができた。9月19日に安保法案が可決され、政権の暴走を止められなかったことへの無力感もあったが、社会の福音化という志を共有する信徒と交流を深め、3日間の締めくくりとしての派遣ミサにあずかることにより、力が湧き、信仰の喜びを感じて鹿児島に帰って

あると思う。

また、全国大会においては、様々な分野の専門家の話を聞くことのできる。これによって、信仰の土台を強化することができる。今年、政治学者の中野晃一教授の講演を聞くことができた。論壇で活躍し、著作もあり、活字では接している人であるが、肉声で聞くのと強調したい点がよく伝わってくる。今回は安保法案が国会で可決された直後であった。講演の最後で「絶望のなかの希望」として、SEALDsの奥田愛基さんの発言が紹介された。その時、一瞬言葉を詰まらせた。本人は「年のせいかもしれない」と弁明していたが、それが印象に残った。私たちは、憲法・政治・社会政策・原発問題等、全てにおいて専門的知識を持ち合わせているわけではない。現実に向き合い、現実と関わりながら信仰を持つためには、学びが不可欠である。専門家が提供してくれる「知識」は自分の頭で考え、判断するために必要である。「祈り」と「行動」を結びあわせるためにも、ふだんからの「学び」が必要だと思ふ。

### 典礼研修会に参加して

奄美地区宣教司牧を考える会

典礼委員 久保正子

十月四日(日)奄美大島で開かれた典礼研修会(新しい総則に基づくミサ典礼の一部変更)に参加しました。これは今年十一月二十九日(待降節第一主日)から施行されるミサのための研修でした。講師は日本カトリック神学院の白浜満神父様で、なぜ変更されるのか、変わらなければならないもの、変わらなければならないもの、



また研修会の休憩時間後には、私たち信徒が日頃から疑問に思っていること、理解しづらいことなどについて質問に、一つひとつ丁寧に納得できるように答えてくださいました。

この日は小学校の運動会や地域の行事などがあちらこちらで行われ、出席者の数を心配しましたが、百六十人もの信徒が駆けつけ、充実したものとなりました。「そこに主が共にいてくださるということ」をイメージして」と訴えられた神父様のお言葉に、ミサの際、何を大切しなければならぬかが理解できたように思っています。

### 再出発しました！ 種子島教会HP

http://www016.upp-sonet.ne.jp/igreja\_tane/

よろしくお願ひします。

### 文芸

#### 俳句

谷山教会 東 健一郎

菊月や射教へし尼をふと

鹿児島純心 川上 和

初秋雲人呑む町のむ里の川

吉野教会 徳永ノブ子

秋晴やミサ聖祭のおだやかに

巡り来る齢重たき敬老日

国分教会 政 ノブ子

葡萄の木祈る司祭の半世紀

秋日和は分けける葉食み出せり

出水教会 遠竹 睦郎

父母の墓に詣でて秋の暮

磔刑のキリスト像を祈る朝

### 短歌

鹿児島純心 川上 和

夕暮れに集いて捧ぐロザリオ

を天使らはこぶ花籠にして

広大な山並み風景描きつつ

御手の業に触るる思いに

大笠利教会 稲 牛憲

吾と子との会話はとおよそ

磯釣りのことにて日々平安

安続く

出水教会 遠竹 睦郎

日用の糧を今日も授かりて

吾れ七十八の齢となりぬ

始良教会 川口 節子

キンモクセイ澄みいる空に

ひとときを心ゆたぬる終活の身を

# 福音の告知が始まる(序)

レデンプトール会司祭 トマス 頭島 光



「福音宣教」という表現の起源があるとすれば、それは第二バチカン公会議終了から10年後にさかのぼることが出来ます。今からちょうど40年前、1975年に出版された使徒的勧告『エヴァンジェリイ・ヌンチアンディ』にあります。この勧告は当時の教皇、パウロ6世によって発布されました。日本語版訳が出版されたとき「福音をのべ伝える」と訳されましたが、いざこれにせよその言葉の意味はカトリック教会の布教及びその拡張という意味とは一線を画するものでした。カトリック教会において洗礼を授け信徒を増やすことは、もとより教会の仕事ではありません。しかし「福音をのべ伝える」という姿勢そのものは、基本カトリック教会の成員である私たち信者一人ひとりが神から呼び出されるといふことに起因して、そこから世に派遣されていくことなのです。カトリック教会はこの宣教命令と使命に基づいて、常にこの世の中に「出向いて行く」のであり、そのことで現代社会が少しずつ「福音化」されていくことを強く希望しているのです。

「出向いて行く」のであり、それを構成する共同体の成員は各人、キリストの弟子として「福音をのべ伝える」よう召し出されているのです。そのために聖霊は今も教会の中で働き、私たち一人ひとりを福音の喜びで満たします。カトリック者一人ひとりととって、「福音はのべ伝えられる」ものであり、また同時に「そうせざるにはいられない」ことなのです。従って、もし福音を「告げ知らせないなら、不幸」(コリ9・16参照)なのであって、福音がのべ伝えられないのであれば、それは教会ではないことを意味します。「教会は：本性上、宣教者である」(「教会の宣教活動における教令」No.2)と第二バチカン公会議が宣言した通りです。

今年の3月17日、日本の教会はこの日を「日本の信徒発見の聖母」の祝日と定めました。今から150年前、日本には「キリシタンはもういない」と思われていました。しかし、その希望と期待を決して失わなかった当時の宣教師プッチャン神父は大浦天主堂で待ち続けました。そして、ついにその歴史の表舞台に信仰の息を吹き返す事態を招いたのです。プッチャン師によって建てられた大浦天主堂を訪ねて現れた数十人の信徒たちによって、およそ250年の長いキリシタン潜伏時代に終わりを告げたのです。種々の苦難と忍耐を耐えてきたこれら信徒の心情を思うとき、その信仰

の深さと忍耐力にただただ神のみ業とみ摂理を思わざるを得ません。今新たに「福音宣教」という大きな使命を胸に、再び日本上陸を果たした異邦神父たちの心と同じである。と知った、この信徒発見の出来事から私たちは何を学ぶことができるでしょうか。長き迫害時代から潜伏の時を乗り越え温められ眠ってきた「福音の種」、それは今どのような実りをもたらすでしょうか。また更に150年が経過した今、撒かれ続けたキリストの言葉、一体どこに見つけますか。

これらの問いを心に留めて、私たちひとり一人に課せられた使命は何かと思いつき返すとき、私は祖先から受け継いだ、キリスト信仰という大いなる遺産をただ単に後世にのべ伝えるだけでなく、福音が人間の愚かさや喜びに変える愛の心であること、また現代人の心を通り抜けること、これを告げ知らせることではないかと思えます。世界は、この150年の

間に二度の大きな罪、すなわち戦争という傷痕を残しました。その反省の上に立つて、しっかりと立ち直るはずであるにも拘らず、未だに悲劇的な殺戮と紛争を繰り返すという愚行、蛮行を繰り返して犯し続けています。まさにその愚かな罪ゆえに十字架に死んで下さった方が、今もまた私たちのために死に続けておられます。み言葉がこのように今も死を賭して撒かれ続けているのであれば、さあ、今こそ我らはそこに出向いて行って、眠っている「福音の種」を見つけ出すよう召されています。

## お恵みがいっぱいでした!

### 五年ぶりの洗礼と初聖体

#### 司教様を迎えて種子島教会

アンジの聖フランシスコの祝日でもあった十月四日(日)、種子島教会では、五年ぶりに洗礼・初聖体のお恵みをいただきました。郡山司教様の司式の主日ミサの中で、二人が洗礼を受け、二人が初聖体を授けられたのです。

乳幼児と隣接の平和の園保育園に通うそのお兄ちゃん、は、司教様のやさしい手で洗礼盤からの聖水を受けました。日曜学校の子ども達、は、初めて見る水の洗礼を自分のことのように目をキラキラ輝かして見守っていました。

また、今回の洗礼式は、諸聖人の連願が流れる中、おごそかに洗礼式が始まりました。お母さんの胸に抱かれた



お母さんの胸に抱かれた

**キッペス神父の黙想会**  
**12月11日(金)18時~13日(日)16時30分**  
 場所：マリア山荘  
 参加費：15,000円(宿泊代・食事代含)  
 連絡先：福沢智子 TEL090-2083-9223  
 e-mail:fuku-h@ml.satsuma.ne.jp

**+KABAYAN SEKSIYON+**  
**Ilang mga Tipo ng Apostolado ng Laiko**

Utang ng marami ang panibagong pananaw ukol sa laiko sa Simbahan sa matalas na pag-iisip ng Dominikanong teologo na si Yves Congar (1904-1995). Inilathala niya sa Pranses ang mahalaga niyang aklat na Lay People in the Church noong 1953. Si Congar na naglingkod sa komite para sa paghahanda sa Vaticano II, ay nagtaglay ng kakaibang kombinasyon ng katalinuhan, katapatan sa Simbahan, at personal na kabanalan.

Sa liwanag ng mga dokumento ng Konsilyo sari-sari at iba't ibang larangan ng apostolado ng laiko ang maaaring tukuyin. Sa libel na personal, ang apostolado ng laiko ay makikita sa tahanan, sa pkikitungo sa kapwa, sa trabaho, at sa pamamagitan ng karaniwang responsibilidad sa pamayanan at politika. Ang mga Kristiyano ay mga apostol sa lahat ng kanilang gawain. Dagdag pa rito, maaaring bumuo ang mga Kristiyano ng mga samahan para sa sari-saring gawaing pansamantala.

Muli, maaaring magbukod ang laiko para sa trabaho ng sari-saring larangang panrelihiyon sa pamamagitan ng iba't ibang mga gawa ng awa. Sa pangwakas, ilang mga laiko ang direktang makikisangkot sa sari-saring gawain sa Simbahan. Ang maraming kasapi ng Simbahan ay patuloy na maglilingkod para mapalalim ang pagkakaisa ng Katawan ni Kristo.

Sa paggawa ninyo ng apostolado bilang mga laiko kayo ay tinaguriang mga disipulo ng Panginoon Hesukristo at patuloy na nagiging saksi sa buhay pananampalataya.

日	月	時間	内容
1日	(日)		諸聖人
		14時	死者のためのミサ・カトリック唐湊墓地
		11時	死者のためのミサ・カトリック納骨堂前広場(奄美市永田町) ※雨天時は聖心教会
2日	(月)		死者の日
6日	(金)	13時30分	宣教学校・ザビエル教会
8日	(日)		年間第三十二主日
9日	(月)		ラテラン教会の献堂
			メニッヒ神父霊名(テヨドル)
10日	(火)		ガブリエル神父命日(一九七八年)
15日	(日)		年間第三十三主日
			福者レオ税所七右衛門殉教祭・京泊教会跡地及び川内教会・12時30分
16日	(月)	14時	司祭評議会・教区本部
		16時	教区司祭会・教区本部
17日	(火)	17時	カリタスジャパン総会・教区本部
20日	(金)	19時	教区巡礼委員会・教区本部
22日	(日)		王であるキリスト
28日	(土)	13時	パードレピオの集い・聖心教会
29日	(日)		待降節第一主日
		13時	パードレピオの集い・ザビエル教会
30日	(月)		聖アンデレ使徒

祈りの意向  
 【ノベナ】今は亡き教区の恩人達(2日~11日)  
 【祈祷の使徒会】世界共通・対話  
 宣 教・司牧者  
 日本の教会・死者のための祈り

## 会と催し(11月)

ドミニコ修道会司祭・故押田成人神父が、日本人の心に適う修道生活を求め、八ヶ岳山麓に開いた。「高森草庵」で、「祈り」と「労働」に専心する一週間余を体験した

**3月1日(日)**  
終日、雪、雪。作業中止。  
Sさん、Tさん、帰る。  
**3月2日(月)**  
朝課。最後の沈黙の時  
間ⅡときⅡを噛みしめる。  
風炉釜で薪の爆ぜる音さえ、その静寂を語るものにはすぎない。時間ⅡときⅡと場(空間)とが一体。沈黙とは、始まりも終わりもない時間と場のことだ、きつと。世界の本来の面目だ。快晴下、雪が一面に広がる銀世界。木々は雪をまとい陽光に輝く。帰路。雪道を一步、一步、下界へ。草庵には、「ほんもの」

## 「祈り」と「労働」に専心する暮らし

高森草庵滞在日記(4)

雪と氷に閉ざされた修道の地で

命ⅡいのちⅡに乏しい。たとえば、ポタン一つで部屋が温まるシステムなど、あるいはスーパーマーケットに並んだ新鮮野菜など、嘘っぱちだ。本来、火を焚かずに暖はとれない、厳寒期に野菜はない。だから、秋までに木々を伐り、

ヤガイモ、カボチャ、キャベツ、白菜などを運び出す。しかもどの野菜も自らの畑で採ったもの。いま一步近づくと下界は、虚構の世界。幻想だ。「ほんもの」など、どこにもない。

的で、言葉だけ、魂の中にしみこまない。おや。Sさんだ。道沿いの民家で、高齢と思しき女性の雪かきを手伝っている。挨拶を交わす。「また来てな。きつと来てな」と手を振るSさん。

うん。きつと来る。日常で失ってしまうものを回復するためにも。「はい」。大きく手を振って応えたのである。

あとがきに代えて  
こんなに長くなるつもりで書き始めたのではなかった。個人的な体験ではあるが、一人のものとして留めておくに惜しいと考えたのである。生意気なことも書いた。神学生の若書きとご海容いただききたい。

温かく迎えてくださった高森草庵に係わる方々に御礼を申し上げたい。またこのような貴重な機会を与えてくださった郡山司教、日々祈ってくださった名瀬聖心教会をはじめとする鹿兒島教区の皆さまに心より感謝申し上げます。

## 司教執務室便り

### 島田喜蔵神父を思う(2)

「なるほど、なるほど、ああ、そうですか。」島田喜蔵神父は、どんな質問に対しても、どんなぶしつけな言い方に対しても決して怒ったりしないで、領きながら最後まで聞かれたという。聞き終ると、「なるほど、立派なお考えです。今度はわたしの意見を聞いてください」と言ってくれようとするのが常で、「私の説を破りたいと思われぬのなら、これこれの一句を破りなさい。ここが崩れると私の論説は根底からひっくりかえってしまいます。お帰りになったらよくお考えください」とヒントを与えて帰ってもらうという(浜脇教会の牧者たち第一巻 下口勲著二五三頁)。

この話は、哲学時代の自分を思い起こさせた。そして、相手に入り込む隙を与えないほどに理路整然と論証される神父様をまぶしく感じた。当時は、試験の答案はありつただけの知識を動員してレポート形式でしかもラテン語で書くものだった。「郡山君の思想は荒っぽい。」答案を返しながらかつ評された司祭の言葉を今も忘れない。哲学生として「あー言えば、こー言う」ことに長けていると内心自負していた私には不満の残る批評だった。しかし、この評価は司祭になって今に至るまで、説教を準備するときの大事な指針の一つとなっている。カギとなる言葉が見つかったらその言葉を巡って話を組み立てる。聞く人々に共感してもらえないか、独りよがりの視点に立っていないか、単なる嫌味や皮肉を言っているだけではないのか、常識的な教訓に終わっていないか、信仰を刺激するチャレンジがあるか等々。「思想が荒っぽい。」今も時折、笑うと童顔のあの若かりし頃の司祭の顔が蘇る。



島田喜蔵神父

## 鈴木神父のやさしい言葉

### 問われるのは挑戦する心

イエス様の有名な言葉の中に「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者とならなさい」という言葉があります(五・48)。常識的に考えて人間が神様のようになり、完全なものになれるはずはありません。では、イエス様は全く以って無茶なことを私たちに要求しているのでしょうか。

この「完全」と訳された言葉は全福音書を通じてマタイにしか見られません。この箇所以外では同じく金

持ちの青年に語った「もし完全にしたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる」という有名な言葉の中でしか使われていません(十九・21a)。つまり、合計して3回しか使われていないマタイ特有の言葉なのです。だからこそ、福音記者マタイはこの言葉にどのような意味を込めたのかを考える必要が生じるのです。

人間の目では成長の過程を見ることができません。成長の結果だけを知ることができません。言い換えれば、「大きくなった」、「伸びた」という結果から成長という過程を考えているのです。しかし、神様はサムエルがダビデを選ぶときに語られたように「人間が見るようには見えない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」のです(サムエル上十六・7)。この言葉にあるように、神様もイエス様も人間の目には見えな



ださることです。

## カトリック通信講座のご案内

1972年開設以来の信頼と実績。『聖書入門〔I〕』のコラムには、Sr.渡辺和子も登場。2015年春に「幸せな結婚」のテキストをリニューアルしました。

- <全7講座>
- T 001=キリスト教とは キリスト教の概要
- T 002=聖書入門〔I〕 四福音書(イエスの生涯)
- T 003=キリスト教入門 秘跡や信仰生活(洗礼準備にも)
- T 004=神・発見の手引 人生、自然を通して神へ
- T 005=聖書入門〔II〕 使徒言行録・書簡・黙示録
- T 006=幸せな結婚 結婚の意味や愛、幸福

T 007=生きること・死ぬこと 命に関する問題

<受講料>(教材費・税込)  
T 001~T 004 各4,800円  
T 005~T 007 各5,300円

<お申込み>  
郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001~T007)をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。  
振替口座番号:00170-2-84745  
加入者名:オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ>  
オリエンズ宗教研究所「カトリック通信講座」  
Tel.03(3322)7601  
FAX03(3325)5322  
詳細はホームページをご覧ください。  
URL:http://www.oriens.or.jp